

## 公益財団法人イオン環境財団と連携協定を締結



### 公益財団法人イオン環境財団と一般財団法人リモート・センシング技術センター連携協定



RESTECと公益財団法人イオン環境財団とは、持続可能な地域づくりの実現に向け、リモートセンシング技術の活用に関する連携協定を7月23日付で締結しました。

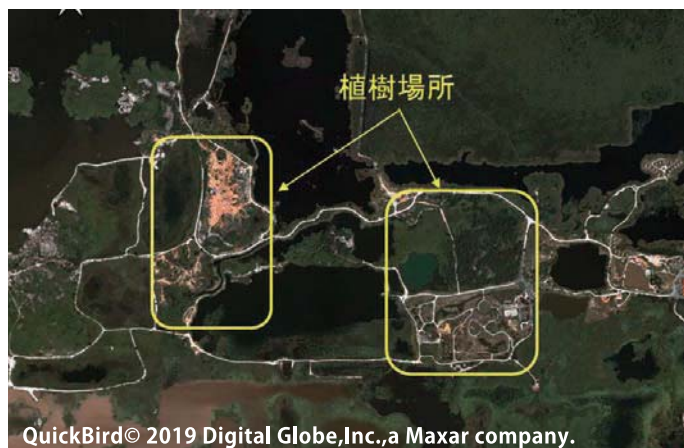
持続可能な開発目標(SDGs)の「目標15:陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」に対して、日本をはじめ各国の活動が地球全体に与える影響は大きく、その社会的責任を問われています。国連の「持続可能な開発目標報告2018」では、地球上の森林面積は、2000年の41億ヘクタールから2015年の約40億ヘクタールへと、1億ヘクタール(日本全土の約2.6倍の面積)縮小を続けています。この問題に対する課題を解決し、持続的な森林管理・気候変動対策を実施するために、リモートセンシング技術を活用した森林変化の把握は重要な鍵になりつつあります。このたびの協定は、地域の皆さまなどのステークホルダーとともに取り組む「イオンの森づくり」にリモートセンシング技術を活用することで、より効率的に活動を推進し、持続可能な地域づくりを目指して取り組むものです。

具体的には、リモートセンシング技術による地球規模のグローバルな視点で得た過去及び現在の地表面の情報により、森や地域の状態を効果的に調べ、植樹候補地の選定に必要な情報や、植樹前後の森林の状態を客観的に把握することが可能となります。そのため、これまでイオン環境財団が実施してきた植樹等の森林管理活動を、より効果的に行うことが可能となります。また教育の場においては、リモートセンシング技術を活用した衛星画像データにより、森林減少、地球温暖化、大気汚染などさまざまな環境問題を把握、理解し、地域の持続的発展のための解決案を考える環境教育も実施致します。両者は、本協定を機に、次代を担う子どもたちに持続可能な地域と豊かな自然を引き継ぐため、以下の事項につき、連携して取り組んでまいります。

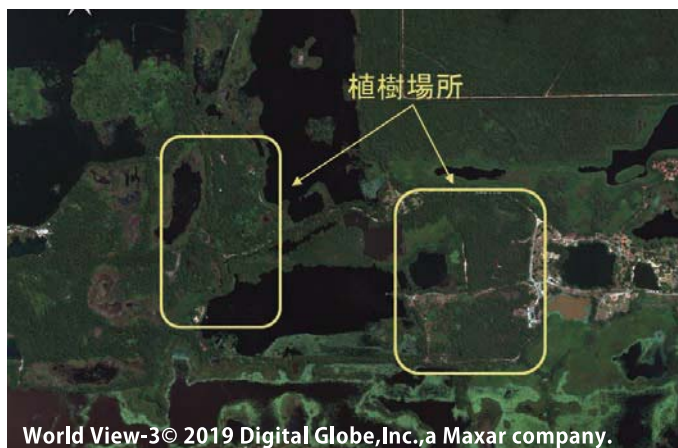
#### 連携事項

リモートセンシング技術を活用した持続可能な地域づくり

- (1) イオンの森づくり
- (2) 環境教育の実施



植樹前(2004年2月)



植樹後(2019年3月)

QuickBird© 2019 Digital Globe, Inc., a Maxar company.

World View-3© 2019 Digital Globe, Inc., a Maxar company.

## ■AW3D®全世界デジタル3D地図データ 製品ラインナップと整備済みエリアを順次拡大中

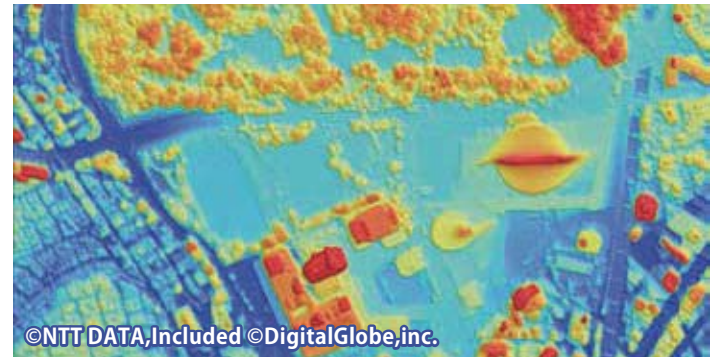
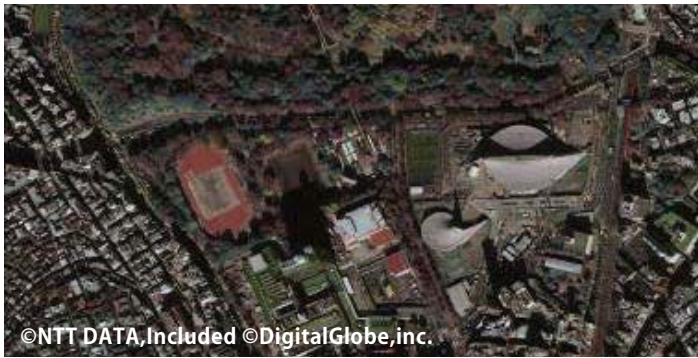


AW3D®全世界デジタル3D地図は、世界で初めて地球上の全ての陸地の高さを5m間隔(5m解像度)の細かさで計測したデジタル3D地図です。現在は0.5m間隔の高精度な3D地図データも提供しています。また日本国内については高精細DSM、カラーオールソ画像、建物3Dデータの整備を進めており、今年の7月に提供を開始しました。これらの3Dデータは、5Gに対応した新たな無線ネットワークの構築、私たちの暮らしを守る防災計画や都市計画の立案、また自動車の自動運転や航空機・ドローンの運行管理など、あらゆる分野で必要となる新しいデジタル3D地図の礎となります。

今後もAW3Dは見る地図から使える地図へと進化していきます。

分類	用途
地図	<ul style="list-style-type: none"> <li>高い位置精度を有する地図の作成、修正</li> <li>地図の更新が必要となる変化地物の把握</li> <li>土地調査、利用状況の把握</li> <li>電子地図データの質量利用による情報補充</li> </ul>
建設・土木	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設用地の測定</li> <li>都市設計、都市工事費の算出</li> <li>都市開発計画策定</li> </ul>
通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線ネットワーク設計</li> <li>IoT機器の設置場所選定</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害危険箇所の把握、防災計画への反映</li> <li>防災情報の3D可視化による共通認識醸成</li> <li>災害対応状況の3D地図上への把握と意思決定支援</li> <li>災害発生時被災箇所への視察、被災リユームの算出</li> </ul>
電力	<ul style="list-style-type: none"> <li>送電線路敷設ルート選定</li> <li>設備周辺環境の状況把握による保全対応</li> <li>管理計画の更新、情報の補正</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路ネットワークデータの作成</li> <li>道路勾配の把握</li> <li>交差点等交通関連地物の把握、基盤の把握</li> </ul>

※AW3D®は、日本国内における株式会社NTTデータと一般財団法人リモート・センシング技術センターの登録商標です。



## ■JAXA地球観測センターの一般公開



令和元年台風19号により被害を受けられた方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

2019年10月19日(土)に当財団でJAXAから運営業務を請け負っている地球観測センターの一般公開を行いました。

台風19号については、ここ地球観測センターは高台に立地しているため幸いにも被害を免れましたが、近隣に目を向けると、堤防の決

壊や河川の氾濫により広範囲に渡って甚大な洪水被害が発生してしまいました。その様な中で行われた今回の施設一般公開ですが、前日からの雨もやみ昼には雲の間から陽光が差し込み過ぎ易い天候の下、今回も大勢の方(約950名)にご来場頂きセンターの活動並びに地球観測について広く知って頂く事が出来ました。

残念ながら屋外イベントは中止となりましたが、毎回大人気の為今回から回数を増やした講演会・子ども宇宙教室、GPMエンジニアリングモデルのリアルな解説、最新の台風19号の画像も取り入れた衛星画像展示やRESTECによるスマホを用いた月面VR体験など、どれも盛況となりました。

RESTECが出展した月面VR体験では、YouTubeに公開したVR動画をスマホとスマホ用VRゴーグルを使用して、たくさんの方に楽しんで頂く事が出来ました。夢中でVR動画を楽しまれているご家族連れの姿が印象的でした。また今回も外部からご協力頂き、地元の物産展や、近隣大学、自治体による展示なども好評を博し地域と一体になった施設公開となりました。

今後も、地球観測センターが地域と繋がり、JAXAの取組み並びに地球観測技術が生活に身近なものである事を広く発信して参ります。

■編集後記 トップ記事で紹介したイオン環境財団さんとの連携協定に関連し、イオンモール幕張新都心夏休み自由研究イベントやエコプロ2019など、今年は様々なイベントへ出展しリモートセンシング技術を紹介させていただきました。HPやFBでは、製品情報やイベントへの出展情報といった最新の情報をご紹介しております。



ホームページ



Facebook